

科目ナンバリング		U-LAS70 10001 SJ50					
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー：脳と機械 ILAS Seminar :Brain and Machine			担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 小村 豊		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)
開講年度・ 開講期	2026・前期	受講定員 (1回生定員)	14(12)人	配当学年	主として1回生	対象学生	全学向
曜時限	金5	教室	共北34			使用言語	日本語
キーワード	脳活動 / BMI						
<b>【授業の概要・目的】</b>							
<p>脳は、命がある限り、常に活動していますが、その活動がどのようなものか、リアルタイムに知ることはできるでしょうか。また脳活動は、普段は、知覚・思考・行動などに貢献していますが、計測された脳信号を、機械につなぐと、どのようになるでしょうか？本授業では、まず、脳活動の生成機序や脳計測手法について解説し、BMI (brain machine interface) を含め、脳と機械が融合化された例を紹介した上で、脳の機能と、その活用の広がりについて、議論していきます。</p>							
<b>【到達目標】</b>							
<p>BMI(brain machine interface)やBCI ( brain computer interface ) の例から、それらの技術の背後にある脳の特長・計算アルゴリズム・信号処理の基礎を理解します。一方で、脳には、機械には実現できない機能をもち合わせています。その側面も踏まえた上で、脳と機械の関係について考察し、今後の可能性についての洞察を深めます。</p>							
<b>【授業計画と内容】</b>							
<p>このゼミはフィードバックを含めた全15回の授業で行います。</p> <p>初めの授業で、オリエンテーションを行います。 下記のサブテーマの下、論文・総説を紹介して、議論を進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 脳の構造と活動</li> <li>2) 脳活動の計測手法</li> <li>3) 脳と機械の融合例</li> <li>4) 脳の計算論と生命論</li> </ol> <p>各サブテーマは、2～4回の授業で扱っていきませんが、最後は、総括的なディスカッションを行う予定です。</p>							
<b>【履修要件】</b>							
特になし							
<b>【成績評価の方法・観点】</b>							
授業での議論とレポートで評価します。詳細は初回授業で説明する							
<b>【教科書】</b>							
未定							
----- ILASセミナー：脳と機械(2)へ続く -----							

ILASセミナー：脳と機械(2)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で扱う論文や資料を知らせるので、それを事前に読んで、当日の議論に備えてください。

[その他(オフィスアワー等)]

[主要授業科目(学部・学科名)]